

公益財団法人無窮会神習文庫所蔵『内記補任』

佐古愛己

はじめに

本稿は、叙位除目研究、特に位記作成に関わる内記の実態研究の基礎的調査を目的として、公益財団法人無窮会神習文庫所蔵『内記補任（自寛延七年至明和二年）』の紹介と翻刻を行うものである。

周知の通り、内記とは中務省の品官（四等官とは系列を異にし、一司を構成した特殊技能を必要とする専門職）である。令制下では大内記二人（正六位上相当、のちに一人）、中内記二人（正七位上）、少内記二人（正八位上）と定められたが、大同元年（八〇六）に中内記を廃止し、代りに史生四人が置かれた。その職掌は詔勅や位記・宣命など天皇発給文書の調進であり、朝廷文書行政の中枢を担う重職である。ゆえに大内記は、漢籍や有職故実に通じた知識と文書行政に関する技能など、高度な能力を有する紀伝道の文章博士を務めた菅原氏一門（唐橋、高辻、五条、東・西坊城家）から多く輩出されたことが知られる。

成立期の内記に関する若干の専論を除くと、内記研究はほとんど行

われていないのが現状である。しかし近年、中・近世の内記に関して、東坊城秀長の日記『迎陽記』^②の刊行や、東坊城和長の研究が行われたり、中・近世位記に関する検討が進められるなど、少しずつ内記関連研究が進みつつある。とはいえ、中・近世内記局の組織や活動全般に関しては、未解明な部分や課題も多い。

たとえば、主に戦国期にみられる宿紙に書かれた位記（所謂「中世的位記」）^①が、『延喜式』様式に復古する背景に関しては明確にされていない。しかし、筆者はその背景として、近世における朝儀の再興や武家官位創出の政治的問題、そして武家の叙任を含む位記作成機会の増加と作成料の取得という公家側の経済的問題などが関連すると想定している。そして同時に当該期の内記局の構成変化も検討する必要があると感じている。そのため、中・近世内記の制度的検討を進める上での基礎的作業として、古代から幕末までの内記補任を作成したいと考えてをり、今回はその第一段階として、本史料の翻刻を行うものである。

ところで、鎌倉後期成立の『本朝書籍目録』に、『内記補任』の名

がみえることから、古代・中世前期までの内記の補任が存在したことが推察される。しかし、同書は伝存していない。一方、神習文庫本『内記補任』は、近世内記の補任であるが孤本とみられ、極めて貴重であるものの、その存在はあまり知られていないようである。^⑥

さて、無窮会神習文庫は、平沼騏一郎氏が大正四年（一九一五）に、国学者井上頼因氏の遺蔵書三万五千冊を一括購入したのを機に創設された文庫であり、井上氏の斎名に因んで神習（かんならい）と名付けられている。^⑦ 本史料はその蔵本の一つである。ただ残念なことは、本書には奥書が記されていないため、成立（書写）年代、伝来等が未詳だという点である。

なお、『神習文庫図書目録』によると、本史料が対象とする時期とほぼ同時期の『少納言補任（自寛延七年至明和六年）』と『外記補任（自寛延七年至宝暦十二年）』等の補任も所蔵されており、何らかの関連が想定される。特に本史料中の随所にみえる「誕生以下、可見少納言補任」という記載は、同文庫蔵『少納言補任』を直接指し示している可能性が高いと考えられよう。本来はこれらの史料との関連性なども併せて調査・考察を行うべきであるが、現在、所蔵機関が大規模改修による閲覧停止中のため、後日の調査を約したい。

なお、佛敎大学史学科五十周年記念号に本翻刻を掲載するにあたり、本学所蔵史料との関連にも触れておく。

本学図書館には、『中原家文書』（請求記号：C093.9/5/1~94）と称する全九四点におよぶ史料群が所蔵されている。これらは少外記中原姓山口家の友昌―友俊―千俊―康俊（友興）四代の天和二年（一

六八二）から文久三年（一八六三）に至る日記や儀式次第書などからなる史料群である。

応仁文明の乱以降の外記局は、正親町流中原氏が局務（大夫外記）に就任したが、六位外記は少納言清原氏と官務小槻氏の家人がつとめ、主従関係が入り乱れた構造であったという。しかし、隼人正流中原氏の当主少外記中原康政が慶長年間に出家（辞任）して以降、清原氏の家来が外記局から消滅し、これに替わって当時局務をつとめた押小路（中原）師生との主従関係によって、新たに平田（中原）生職、志水（中原）生俊、山口（中原）生友が取り立てられた。師生・師定父子の時期に、局務・押小路氏が主導する、近世的な組織が確立していたと指摘されている。^⑧

本学の『中原家文書』は、この少外記山口家歴代に関わる史料である。^⑨ そして彼らは少内記の経歴を有するので、本史料は該期外記局のみならず内記局の組織や活動を知り得る上でも重要だといえよう。しかし、本史料は『国書総目録』等にも記載されていないため、あまり存在が知られていない。今後、本史料が活用され、近世朝廷・官司研究に資することが望まれる。

如上の山口家の人々が活躍した時期とも対応する、神習文庫蔵『内記補任』を併せて参照することにより、研究の一助となれば幸いである。

なお、本史料の閲覧、写真頒布、および翻刻に際して、公益財団法人無窮会に便宜を得た。謝意を記したい。

【注】

- (1) 藤原茂樹「撰善言司研究―内記への道―」（慶應義塾大学国文学研究会編『折口信夫 論文・作品の研究 国文学論叢新集六』桜風社、一九八三年）、中野高行「八・九世紀における内記の特質」（『続日本紀研究』二五七、一九八八年）、請田正幸「内記と能書」（『続日本紀研究』二七八、一九九二年）、細井浩志「記録官司としての内記局の研究―国史原史料の問題と日唐の月食比較―」（『延喜式研究』二〇、二〇〇四年）、伊集院葉子「女史と内記―律令制下の文書行政と内侍司の変容―」（『日本歴史』七八二、二〇一三年）など。
- (2) 『史料纂集古記録編 迎陽記一・二』（八木書店、二〇一一年・一六年）。
- (3) 伊藤慎吾『室町戦国期公家社会と文事』（三弥井書店、二〇一二年）。
- (4) 拙稿「中世叙位制度の展開と叙位関係文書―位記・口宣案を中心に―」（第四五回日本古文書学会大会レジュメ、二〇一二年）、遠藤珠紀「足守木下家文書に残る三通の位記の再検討―天正一三年の秀吉の昇進と公卿たち―」（『日本歴史』七七八、二〇一三年）、同「史料編纂所新収『榮家多氏文書』の紹介」（『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』六三、二〇一三年）、長村祥知「中世風の位記―『菊亭家文書』寛永五年正月藤原宣季叙正二位位記」（『朱雀―京都文化博物館研究紀要』二五、二〇一三年）。
- (5) 『本朝書籍目録』（国立国会図書館デジタルコレクション）「官位」の項、和田英松『本朝書籍目録考証』（明治書院、一九三六年）。
- (6) ちなみに、『国史大辞典』「内記」の項（黛弘道氏執筆）には、『本朝書籍目録』所載「内記補任」が伝存していない点は明記されているが、神習文庫本「内記補任」は取り上げられていない。
- (7) 『神習文庫図書目録』（無窮会、一九三五年）。
- (8) 井上幸治編『外記補任』（続群書類従完成会、二〇〇四年）の「解説」。
- (9) なお、平田家に関しては、出納平田家文書（宮内庁書陵部）、外記平田家文書（早稲田大学図書館）、平田家文書（京都府立総合資料館）などがある。

【解題】

公益財団法人無窮会神習文庫所蔵（井上頼因氏旧蔵本）『内記補任』一冊（目録番号・五四〇三）は、縦二七・五×横二二・一cmの四ツ目綴じ。表紙左上には打ち付け書きで「内記補任（自寛永七年至明和二年）」の外題がある。内表紙には「内記補任 自明正院」との内題がみえる。袋綴じ二四丁で、一丁目表の右下隅に「井上頼因蔵」、右上隅に「無窮会神習文庫」の蔵書印が捺されている。奥書などはみられない。

【翻刻凡例】

- 一、字体は基本的に常用漢字を用いた。
- 一、字配りは原本のものを尊重するように努めたが、細字部分の体裁は、組版の都合により改めた場合がある。
- 一、本文中に使用した記号は以下の通り。
 - 〽内は割書き、【】内は頭注・傍注、（ ）内は筆者注を示す。
 - 一、歴代天皇名、元号に付している●、△は原本に従った。なお、（多くは任終時の人名に付されている）合点は省略した。

【翻刻】

（表表紙）

「

内記補任〈自寛永七年至明和二年〉

（内表紙）

内記補任 〈自明正院〉

（二丁裏）

明正院 寛永七 同八 同九 同十 同十一 同十二 同十三 同十

四 同十五 同十六 同十七 同十八 同十九 同二十

後光明院同廿一〈正保元〉 正保二 同三 同四 同五〈慶安元〉慶

安二 同三 同四 同五〈承応元〉承応二 同三

後西院 同四〈明暦元〉 明暦二 同三 同四〈万治元〉 万治二

同三 同四〈寛文元〉 寛文二 同三

靈元院 同四 同五 同六 同七 同八 同九 同十 同十一 同十

二 同十三〈延宝元〉 延宝二 同三 同四 同五 同六

同七 同八 同九〈天和元〉 天和二 同三 同四〈貞享

元〉 貞享二 同三 同四

東山院 同五〈元禄元〉 元禄二 同三 同四 同五 同六 同七

同八 同九 同十 同十一 同十二 同十三 同十四 同十

五 同十六 同十七〈宝永元〉 宝永二 同三 同四 同五

同六

中御門院同七 同八〈正徳元〉 正徳二 同三 同四 同五 同六

〈享保元〉 享保二 同三 同四 同五 同六 同七 同八

同九 同十 同十一 同十二 同十三 同十四 同十五 同

十六 同十七 同十八 同十九 同二十

桜町院 同廿一〈元文元〉 元文二 同三 同四 同五 同六〈寛保

元〉 寛保二 同三 同四〈延享元〉 延享二 同三 同

四

桃園院 同五〈寛延元〉 寛延二 同三 同四〈宝暦元〉 宝暦二

同三 同四 同五 同六 同七 同八 同九 同十 同十一

同十二 同十三 同十四〈明和元〉 明和二 同三 同四

（二丁表、以下丁数略）

●明正院

△寛永七年〈庚午〉

大内記正四位下菅為適【寛永五四十三】〈三十四〉 少納言・侍

從・文章博士

少内記正六位上安倍盛勝【慶長七十二廿六】〈六十四〉 右大史・

少外記

中原生職【寛永六八四】〈四十〉 少外記・右大史

△同八年〈辛未〉

大内記正四位下菅為適〈三十五〉 少納言・侍從

少内記正六位上安盛勝〈六十五〉 右大史・少外記

中生職〈四十一〉

△同九年〈壬申〉

大内記正四位下菅為適〈三十六〉 少納言・侍従、正月五日叙従三位〈勞五年〉

同遂長〈三十三〉 正月十一日任、少納言・侍従

贈大納言為經卿三男〈誕生以下、可見少納言補任〉

少内記正六位上安盛勝〈六十六〉 右大史・少外記、正月十日従五下、兼任東市正

中生職〈四十二〉 少外記・右大史、正月十日従五位下

△同十年〈癸酉〉

大内記正四位下菅遂長〈三十四〉 少納言・侍従

少内記従五位下安盛勝〈六十七〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十三〉 少外記・右大史

△同十一年〈甲戌〉

大内記正四位下菅遂長〈三十五〉 少納言・侍従、改称号为高辻〈元西坊城〉

少内記従五位下安盛勝〈六十八〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十四〉 少外記・右大史

△同十二年〈乙亥〉

大内記正四位下菅遂長〈三十六〉 少納言・侍従

少内記従五位下安盛勝〈六十九〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十五〉 少外記・右大史

△同十三年〈丙子〉

大内記正四位下菅遂長〈三十七〉 少納言・侍従

少内記従五位下安盛勝〈七十〉 右大史・少外記・東市正
中生職〈四十六〉 少外記・右大史

△同十四年〈丁丑〉

大内記正四位下菅遂長〈三十八〉 少納言・侍従、十二月廿六日兼文章博士、卅日辞内記〈勞六年〉
正五位下同知長〈十七〉 十二月廿九日任、侍従

式部大輔長維卿男〈誕生以下、可見少納言補任〉

少内記従五位下安盛勝〈七十一〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十二(ママ、以下同じ)〉 少外記・右大史

△同十五年〈戊寅〉

大内記正五位下菅知長〈十八〉 侍従

少内記従五位下安盛勝〈七十二〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十三〉 少外記・右大史

△同十六年〈己卯〉

大内記正五位下菅知長〈十九〉 侍従、正月十一日任少納言

少内記従五位下安盛勝〈七十三〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十四〉 少外記・右大史

△同十七年〈庚辰〉

大内記正五位下菅知長〈二十〉 少納言・侍従

少内記従五位下安盛勝〈七十四〉 右大史・少外記・東市正

中生職〈四十五〉 少外記・右大史

△同十八年〈辛巳〉

大内記正五位下菅知長〈二十一〉 少納言・侍従、正月五日從四下

少内記從五位下安盛勝〈七十五〉 右大史・少外記・東市正、五月

十八日卒〈勞四十年〉

中生職〈四十六〉 少外記・右大史

△同十九年〈壬午〉

大内記從四位下菅知長〈二十二〉 少納言・侍従、二月廿日兼文章

博士、同日辭内記〈勞六年〉

從四位下菅為庸〈二十四〉 二月廿日任、少内記・侍従

參議為適卿男 〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中生職〈四十七〉 少外記・右大史

△同二十年〈癸未〉

大内記從四位下菅為庸〈二十五〉 少納言・侍従、十一月十五日為

侍読

少内記從五位下中生職〈四十八〉 少外記・右大史

●後光明院

△寛永廿一年〈甲申〉十二月十六日為正保元

大内記從四位下菅為庸〈二十五（ママ、以下同じ）〉 少納言・侍

従、正月五日從四上

少内記從五位下中生職〈四十九〉 少外記・右大史

△正保二年〈乙酉〉

大内記從四位上菅為庸〈二十六〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十〉 少納言・右大史

正六位上三善亮英〈三十〉 十月廿日兼任右少史、十二月十

六日死

故右大史英芳男、元和二誕生、同六十二廿五正六位上

〈五〉、寛永六十一八右少史〈十四〉

△同三年〈丙戌〉

大内記從四位上菅為庸〈二十七〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十一〉 少外記・右大史

△同四年〈丁亥〉

大内記從四位上菅為庸〈二十八〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十二〉 少外記・右大史

△同五年〈戊子〉、二月十五日為慶安元

大内記從四位上菅為庸〈二十九〉 少納言・侍従、正月五日正四下

少内記從五位下中生職〈五十三〉 少外記・右大史

△慶安二年〈己丑〉

大内記正四位下菅為庸〈三十〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十四〉 少外記・右大史

△同三年〈庚寅〉

大内記正四位下菅為庸〈三十一〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十五〉 少外記・右大史

△同四年〈辛卯〉

大内記正四位下菅為庸〈三十二〉 少納言・侍従

少内記從五位下中生職〈五十六〉 少外記・右大史

△同五年〈壬辰〉、九月十八日為承応元

大内記正四位下菅為庸〈三十三〉 少納言・侍從

少内記從五位下中生職〈五十七〉 少外記・右大史

△承応二年〈癸巳〉

大内記正四位下菅為庸〈三十四〉 少納言・侍從

少内記從五位下中生職〈五十八〉 少外記・右大史

正六位上同定慶〈二十六〉 正月十九日任、權少外記

故權少外記生慶男〈実中原景秀三男、寛永五六一誕生、正

保二正六正六上〈十八〉、同三十九權少外記〉

△同三年〈甲午〉

大内記正四位下菅為庸〈三十五〉 少納言・侍從、五月廿八任式部

權大輔〈于時去之、在官十三年〉

從五位上同良長〈三十〉 十二月廿一日任少納言、同日兼

任、文章博士・侍從等如元

故權大納言長維卿二男〈誕生以下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中生職〈五十九〉 少外記・右大史

正六位上同定慶〈二十七〉 權少外記

●後西院

△承応四年〈乙未〉 四月十三日改元為明暦元

大内記從五位上菅良長〈三十一〉 少納言・侍從・文章博士、二月

八日改豐長、廿五日正五下

少内記從五位下中生職〈六十〉 少外記・右大史、八月廿五日辭、

〈勞廿二年〉

正六位上同定慶〈二十八〉 權少外記

【位定慶上】同職俊〈二十四〉 八月二十五日兼、權少外記

少外記生職男、母大野右馬允宗閑女

寛永九十一廿四誕生、同十五正五正六上、同十九十二廿二權少外記、

慶安四正五兼内匠大允

△明暦二年〈丙申〉

大内記正五位下菅豐長〈三十二〉 少納言・侍從・文章博士

少内記正六位上中職俊〈二十五〉 權少外記

同定慶〈二十九〉 同

△同三年〈丁酉〉

大内記正五位下菅豐長〈三十三〉 少納言・侍從・文章博士

少内記正六位上中職俊〈二十六〉 權少外記

同定慶〈三十〉 同

△明暦四年〈戊戌〉 七月廿三日為万治元

大内記正五位下菅豐長〈三十四〉 少納言・侍從・文章博士

少内記正六位上中職俊〈二十七〉 權少外記

同定慶〈三十一〉 同

△万治二年〈己亥〉

大内記正五位下菅豐長〈三十五〉 少納言・侍從・文章博士、三月

十三日服解実父、五月四日除服

復任、十二月廿二日從四下、

〈去正五分、明暦三正五叙云々〉

少内記正六位上中職俊〈二十八〉 権少外記、十二月廿二日叙從五位下、同日転少外記

同定慶〈三十二〉 同

△同三年〈庚子〉

大内記從四位下菅豊長〈三十六〉 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職俊〈二十九〉 少外記

正六位上同定慶〈三十三〉 権少外記

△同四年〈辛丑〉 四月廿五日為寛文元

大内記從四位下菅豊長〈三十七〉 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職俊〈三十〉 少外記

正六位上同定慶〈三十四〉 権少外記

△寛文二年〈壬寅〉

大内記從四位下菅豊長〈三十八〉 少納言・侍從・文章博士、二月十四日服解母、四月八日除服復任

任

少内記從五位下中職俊〈三十一〉 少外記

正六位上同定慶〈三十五〉 権少外記

●靈元院

△同三年〈癸卯〉 正月廿六日受禪、四月廿六日（廿七カ）即位

大内記從四位下菅豊長〈三十九〉 少納言・侍從・文章博士、正月六日從四上、六月十一日式部権大輔、少納言・侍從・大内記・博士等如元

少内記從五位下中職俊〈三十二〉 少外記

正六位上同定慶〈三十六〉 権少外記

△同四年〈甲辰〉

大内記從四位上菅豊長〈四十〉 少納言・侍從・式部権大輔・文章博士

少内記從五位下中職俊〈三十三〉 少外記

正六位上同定慶〈三十七〉 権少外記

△同五年〈乙巳〉

大内記從四位上菅豊長〈四十一〉 少納言・侍從・式部権大輔・文章博士、十二月廿三日正四位下、辞博士

辞博士

少内記從五位下中職俊〈三十四〉 少外記

正六位上同定慶〈三十八〉 権少外記、六月廿一日死〈在官十三年〉

安亮昌〈三十七〉 十二月廿三日兼左少史

故左少史少外記亮守男〈実右史生宗岡孝昌末子〉

寛永六誕生、正保三十九正六下、廿五右少史、承応元十二正六上、明暦元十廿六左少史

△同六年〈丙午〉

大内記正四位下菅豊長〈四十二〉 少納言・侍從、式部権大輔

少内記從五位下中職俊〈三十五〉 少外記

正六位上安亮昌〈三十八〉 左少史

△同七年〈丁未〉

大内記正四位下菅豊長〈四十三〉 少納言・侍従・式部権大輔
少内記從五位下中職俊〈三十六〉 少外記

正六位上安亮昌〈三十九〉 左少史

△同八年〈戊申〉

大内記正四位下菅豊長〈四十四〉 少納言・侍従・式部権大輔
少内記從五位下中職俊〈三十七〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十〉 左少史

△同九年〈己酉〉

大内記正四位下菅豊長〈四十五〉 少納言・侍従・式部権大輔
少内記從五位下中職俊〈三十八〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十一〉 左少史

△同十年〈庚戌〉

大内記正四位下菅豊長〈四十六〉 少納言・侍従・式部権大輔、十
一月九日從三位へ去正五分、権

大輔如元、去余官、在官十七年

正五位下同為致〈二十二〉 正月十一日任、侍従・文章博士、
十二月廿八日少納言

権中納言為庸卿男〈可見少納言補任〉

少内記從五位下中職俊〈三十九〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十二〉 左少史

△同十一年〈辛亥〉

大内記正五位下菅為致〈二十三〉 少納言・侍従・文章博士、十二
月廿一日叙從四位下

少内記從五位下中職俊〈四十〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十三〉 左少史

△同十二年〈壬子〉

大内記從四位下菅為致〈二十四〉 少納言・侍従・文章博士
少内記從五位下中職俊〈四十一〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十四〉 左少史

△同十三年〈癸丑〉九月廿一日為延宝元

大内記從四位下菅為致〈二十五〉 少納言・侍従・文章博士
少内記從五位下中職俊〈四十二〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十五〉 左少史

△延宝二年〈甲寅〉

大内記從四位下菅為致〈二十六〉 少納言・侍従・文章博士、正月
五日從四位上

少内記從五位下中職俊〈四十三〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十六〉 左少史

△同三年〈乙卯〉

大内記從四位上菅為致〈二十七〉 少納言・侍従・文章博士
少内記從五位下中職俊〈四十四〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十七〉 左少史

△同四年〈丙辰〉

大内記從四位上菅為致〈二十八〉 少納言・侍従・文章博士
少内記從五位下中職俊〈四十五〉 少外記

正六位上安亮昌〈四十八〉 左少史

△同五年〈丁巳〉

大内記從四位上菅為致〈二十九〉 少納言・侍從・文章博士、正月

五日正四位下、八月十三日服解
父、十月五日除服出仕復任、後

十二月廿六日式部權大輔

少内記從五位下中職俊〈四十六〉

少外記

正六位上安亮昌〈四十九〉

左少史、月日辭之、在官十三年

正六位下中定清〈十三〉

六月廿四日兼任、今日權少外記

故權少外記少内記定慶男〈寛文五正廿三誕生、延宝五五、

正六下〉

△同六年〈戊午〉

大内記正四位下菅為致〈三十〉

式部權大輔

九月十六日任大學頭、辞大内記

從四位上同長詮〈三十三〉

九月十六日任、少納言・侍從・

文章博士等如元

前權大納言恒長卿男、誕生以下可見少納言補任

少内記從五位下中職俊〈四十七〉

少外記、十二月十九日止〈在官

二十五年〉

正六位下同定清〈十四〉

權少外記

△同七年〈己未〉

大内記從四位上菅長詮〈三十四〉

少納言・侍從・文章博士、五月

廿一日正四下〈去正五分〉

少内記正六位下同定清〈十五〉

權少外記

【位定清上】同職永〈二十四〉 二月十日転少外記、同日兼

任、十二廿五從五下

職俊男、母真繼伊予守紀久忠女〈明暦三十五誕生、寛
文三正十二正六下〈八〉、同七十二十三權少外記〉

△同八年〈庚申〉

大内記正四位下菅長詮〈三十五〉

少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈二十五〉

少外記

正六位下同定清〈十六〉

權少外記

△同九年〈辛酉〉 九月廿九日為天和元

大内記正四位下菅長詮〈三十六〉

少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈二十六〉

少外記

正六位下同定清〈十七〉

權少外記

△天和二年〈壬戌〉

大内記正四位下菅長詮〈三十七〉

少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈二十七〉

少外記

正六位下同定清〈十八〉

權少外記

△同三年〈癸亥〉

大内記正四位下菅長詮〈三十八〉

少納言・侍從・文章博士、八月

廿三日叙從三位〈博士如元、去

余官、在官六ヶ年〉

從四位下同在庸〈二十八〉

九月廿一日任、四日任少、侍

從・博士等如元

故前參議在村卿男〈実故前權大納言為庸卿末子。誕生已下、

可見少納言補任

少内記從五位下中職永〔二十八〕 少外記、二月十四日兼中宮大属

正六位下同定清〔十九〕 権少外記

△同四年〔甲子〕二月廿一日為貞享元

大内記從四位下菅在庸〔二十九〕 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔二十九〕 少外記・中宮大属

正六位下同定清〔二十〕 権少外記

△貞享二年〔乙丑〕

大内記從四位下菅在庸〔三十〕 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔三十〕 少外記・中宮大属

正六位下同定清〔二十一〕 権少外記

△同三年〔丙寅〕

大内記從四位下菅在庸〔三十一〕 少納言・侍從・文章博士、後三

月廿七日叙從四上、十一月十五

日辞大内記〔在官四年〕

同長量〔二十五〕 十一月十九日任、文章博士・侍

從・東宮学士等如元

式部大輔豐長卿男〔実前権大納言恒長卿男。誕生已下可見

少内記補任〕

少内記從五位下中職永〔三十一〕 少外記・中宮大属、十月廿四日

兼中務少輔

正六位下同定清〔二十二〕 権少外記

△同四年〔丁卯〕三月廿一日讓位

大内記從四位下菅長量〔二十六〕 文章博士・侍從・東宮学士、三

月七日任少納言、廿一日止学士、

四月九日辞少納言、七月卅日還

任少納言

少内記從五位下中職永〔三十二〕 少外記・中宮大属・中務少輔

正六位下同定清〔二十三〕 権少外記、八月十八正六上、大

藏少丞、廿三日為大嘗会主基行

事

●東山院

△貞享五年〔戊辰〕九月卅日改為元禄元

大内記從四位下菅長量〔二十七〕 少納言・侍從・文章博士、正月

廿二日從四上、去六日分

少内記從五位下中職永〔三十三〕 少外記・中務少輔

正六位上同定清〔二十四〕 権少外記・大藏少丞

△元禄二年〔己巳〕

大内記從四位上菅長量〔二十八〕 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔三十四〕 少外記・中務少輔

正六位上同定清〔二十五〕 権少外記・大藏少丞

△同三年〔庚午〕

大内記從四位上菅長量〔二十九〕 少納言・侍從・文章博士、三月

十二日式部権大輔〔余官如元〕

少内記從五位下中職永〔三十五〕 少外記・中務少輔

正六位上同定清〈二十六〉 権少外記・大蔵少丞

△同四年〈辛未〉

大内記從四位上菅長量〈三十〉 少納言・侍從・式部權大輔、十

二月廿一日正四下〈去正六分〉

少内記從五位下中職永〈三十六〉 少外記・中務少輔

正六位上同定清〈二十七〉 権少外記・大蔵少丞

△同五年〈壬申〉

大内記正四位下菅長量〈三十一〉 少納言・侍從・式部權大輔

少内記從五位下中職永〈三十七〉 少外記・中務少輔

正六位上同定清〈二十八〉 権少外記・大蔵少丞、九月十三

日退〈在官十六年〉

△同六年〈癸酉〉

大内記正四位下菅長量〈三十二〉 少納言・侍從・式部權大輔

少内記從五位下中職永〈三十八〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈四十六〉 十二月廿五日兼任、権少外記・

宮内少丞

故権少外記定友名跡相統へ右大史安倍亮昌猶子。実円満院

宮坊官古守大蔵卿法眼定益孫、定治男

慶安元十一廿六誕生、延宝七十二廿六正六下〈卅二〉、同日権少外

記、貞享四八十八正六上〈四十〉、同日兼任宮内少丞、八月廿三為

大嘗会主基行事

△同七年〈甲戌〉

大内記正四位下菅長量〈三十三〉 少納言・侍從・式部權大輔、九

正五位下同在隆〈三十〉 月廿三日解却〈在官九年〉

故少納言在唐朝臣男へ実故民部少輔在勝男。誕生已下、可

見少納言補任

少内記從五位下中職永〈三十九〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈四十七〉 権少外記・宮内少丞

△同八年〈乙亥〉

大内記正五位下菅在隆〈三十一〉 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈四十〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈四十八〉 権少外記・宮内少丞

△同九年〈丙子〉

大内記正五位下菅在隆〈三十二〉 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈四十一〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈四十九〉 権少外記・宮内少丞

△同十年〈丁丑〉

大内記正五位下菅在隆〈三十三〉 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈四十二〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈五十〉 権少外記・宮内少丞

△同十一年〈戊寅〉

大内記正五位下菅在隆〈三十四〉 侍從・文章博士、十二月廿七日

從四下〈去正五分〉

少内記從五位下中職永〈四十三〉 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〈五十一〉 権少外記・宮内少丞

△同十二年〔己卯〕

大内記從四位下菅資長〔三十五〕 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔四十四〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十二〕 權少外記・宮内少丞

△同十三年〔庚辰〕

大内記從四位下菅在隆〔三十六〕 侍從・文章博士、八月五日辞

〔在官七年〕

從五位下同資長〔二十二〕 八月八日任、侍從

前權中納言長詮卿男〔誕生可見少納言補任〕

少内記從五位下中職永〔四十五〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十三〕 權少外記・宮内少丞

△同十四年〔辛巳〕

大内記從五位下菅資長〔二十三〕 侍從

少内記從五位下中職永〔四十六〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十四〕 權少外記・宮内少丞、十二月廿三日転少外記

△同十五年〔壬午〕

大内記從五位下菅資長〔二十四〕 侍從、十一月廿九日從五上〔去

正五分〕、同日兼文章博士

少内記從五位下中職永〔四十七〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十五〕 少外記・宮内少丞

△同十六年〔癸未〕

大内記從五位上菅資長〔二十五〕 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔四十八〕 少外記・中務少輔

同 正六位上同友昌〔五十六〕 少外記・宮内少丞

△同十七年〔甲申〕三月十三日改為宝永元

大内記從五位上菅資長〔二十六〕 侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〔四十九〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十七〕 少外記・宮内少丞

△宝永二年〔乙酉〕

大内記從五位上菅資長〔二十七〕 侍從・文章博士、六月十九日正

五下〔去正五分〕

少内記從五位下中職永〔五十〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十八〕 少外記・宮内少丞

△同三年〔丙戌〕

大内記正五位下菅資長〔二十八〕 侍從・文章博士、二月廿日少納

言〔兼官如元〕

少内記從五位下中職永〔五十一〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔五十九〕 少外記・宮内少丞

△同四年〔丁亥〕

大内記正五位下菅資長〔二十九〕 少納言・侍從・文章博士、正月

廿三日從四下〔去正五分〕

少内記從五位下中職永〔五十二〕 少外記・中務少輔

正六位上同友昌〔六十〕 少外記・宮内少丞

△同五年〔戊子〕

大内記從四位下菅資長〔三十〕 少納言・侍從・文章博士、二月

十六日兼東宮学士、十二月廿九日辞、〈在官九年〉

同総長 〈二十一〉 十二月廿九日兼少納言、侍従・文章博士・東宮学士

故少納言長量朝臣男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記従五位下中職永 〈五十三〉 少外記・中務少輔、二月十六日兼東宮大属

正六位上同友昌 〈六十一〉 少外記・宮内少丞、十二月廿一日従五下

△同六年〈己丑〉

大内記従四位下菅総長 〈二十二〉 少納言・侍従・文章博士・東宮学士、六月廿一日止学士

少内記従五位下中職永 〈五十四〉 少外記・中務少輔・春宮大属、六月廿一日止大属

正六位上（ママ）同友昌 〈六十二〉 少外記・宮内少丞

●中御門院

△宝永七年〈庚寅〉

大内記従四位下菅総長 〈二十三〉 少納言・侍従・文章博士

少内記従五位下中職永 〈五十五〉 少外記・中務少輔
同友昌 〈六十三〉 少外記・宮内少丞

△同八年〈辛卯〉四月廿五日為正徳元

大内記従四位下菅総長 〈二十四〉 少納言・侍従・文章博士、十二

月廿三日叙従四位上〈去正五分〉
少外記・中務少輔

同友昌 〈六十四〉 少外記・宮内少丞、十二月廿三
転宮内少輔

△正徳二年〈壬辰〉

大内記従四位上菅総長 〈二十五〉 少納言、侍従・文章博士
少内記従五位下中職永 〈五十七〉 少外記、中務少輔

同友昌 〈六十五〉 少外記、宮内少輔、
△同三年〈癸巳〉

大内記従四位上菅総長 〈二十六〉 少納言・侍従・文章博士・十二月廿六日為侍読、同日正四下
〈読書始侍読賞〉

少内記従五位下中職永 〈五十八〉 少外記・中務少輔
同友昌 〈六十六〉 少外記・宮内少輔、

△同四年〈甲午〉

大内記正四位下菅総長 〈二十七〉 少納言・侍従、文章博士
少内記従五位下中職永 〈五十九〉 少外記・中務少輔

同友昌 〈六十七〉 少外記・宮内少輔、
△同五年〈乙未〉

大内記正四位下菅総長 〈二十八〉 少納言・侍従・文章博士、七月
六日辞〈在官八年〉

同為範 〈二十八〉 七月七日兼、少納言・侍従・文章博士

故文章博士為房男〈実為致男。誕生以下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中職永〈六十〉 少外記・中務少輔

同友昌〈六十八〉 少外記・宮内少輔、

△同六年〈丙申〉六月廿二日為享保元

大内記正四位下菅為範〈二十九〉 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈六十一〉 少外記・中務少輔

同友昌〈六十九〉 少外記・宮内少輔

△享保二年〈丁酉〉

大内記正四位下菅為範〈三十〉 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈六十二〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十〉 少外記・宮内少輔

△同三年〈戊戌〉

大内記正四位下菅為範〈三十一〉 少納言・侍從・文章博士

少内記從五位下中職永〈六十三〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十一〉 少外記・宮内少輔

△同四年〈己亥〉

大内記正四位下菅為範〈三十二〉 少納言・侍從・文章博士、十二

月廿六日從三位〈于時去之、在

官五年〉

同在廉〈三十三〉 十二月廿七日兼、少納言・侍從

故式部權大輔在隆朝臣男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中職永〈六十四〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十二〉 少外記・宮内少輔

△同五年〈庚子〉

大内記正四位下菅在廉〈三十四〉 少納言・侍從

少内記從五位下中職永〈六十五〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十三〉 少外記・宮内少輔

△同六年〈辛丑〉

大内記正四位下菅在廉〈三十五〉 少納言・侍從、十二月廿四日從

三位〈于時去之、在官三年〉

從四位上同致長〈二十八〉 十二月廿六日任、侍從如元

故入道前參議長時卿男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中職永〈六十六〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十四〉 少外記・宮内少輔

△同七年〈壬寅〉

大内記從四位上菅致長〈二十九〉 侍從

少内記從五位下中職永〈六十七〉 少外記・中務少輔

同友昌〈七十五〉 少外記・宮内少輔

△同八年〈癸卯〉

大内記從四位上菅致長〈三十〉 侍從、二月十三日任少納言〈于

時如元〉

少内記從五位下中職永〈六十八〉 少外記・中務少輔、五月十一日

從五上

同友昌〈七十六〉 少外記・宮内少輔

△同九年〈甲辰〉

大内記從四位上菅致長〈三十一〉 少納言・侍從

少内記從五位下中職永〈六十九〉 少外記・中務少輔、二月十一日

轉任權大外記、四月廿二日辭權

大外記、十二月十三日辭〈在官

四十六年〉

從五位下同友昌〈七十七〉 少外記・宮内少輔

正六位上同昌範〈五十五〉 十二月廿六日任、少外記・式部

少丞

故權少外記友範男〈実贊者縫殿允橘定成二男〉

寛文五十四誕生、元禄十三八七正六下、權少外記〈卅一〉、十二

廿五兼任式部少丞、正徳五二十五正六位上〈四十六〉、享保六十一

廿二任少外記

△同十年〈乙巳〉

大内記從四位上菅致長〈三十二〉 少納言・侍從、八月十六日辭

〈在官五年〉

正五位下同長誠〈二十〉 八月廿二日任、侍從、至服中

故前權中納言資長卿男〈誕生以下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中友昌〈七十八〉 少外記・宮内少輔

正六位上同昌範〈五十六〉 少外記・式部少丞

△同十一年〈丙午〉

大内記正五位下菅長誠〈二十一〉 侍從

少内記從五位下中友昌〈七十九〉 少外記・宮内少輔

正六位上同昌範〈五十七〉 少外記・式部少丞

△同十二年〈丁未〉

大内記正五位下菅長誠〈二十二〉 侍從、正月廿一日從四下〈去五

日分〉

少内記從五位下中友昌〈八十〉 少外記・宮内少輔

正六位上同昌範〈五十八〉 少外記・式部少丞

△同十三年〈戊申〉

大内記從四位下菅長誠〈二十三〉 侍從、六月十一日東宮學士、七

月廿三日文章博士

少内記從五位下中友昌〈八十一〉 少外記・宮内少輔、十二月廿一

日從五上

正六位上同昌範〈五十九〉 少外記・式部少丞

△同十四年〈己酉〉

大内記從四位下菅長誠〈二十四〉 侍從・東宮學士・文章博士、十

二月廿四日少納言〈于時去之、

在官五年〉

同冬長〈二十一〉 十二月廿四日、侍從・文章博士

權中納言總長卿男

宝永六三廿八誕生、享保五二十八學問料、同七二十六文章得業生、

元服昇殿、十二九獻策、同月十三日侍從、從五下、同九正十四從五

上、〈十六、去六日分〉、同十一正廿六正五下〈十八〉、同十三正

九從四下〈廿、去五日分〉、十五兼文章博士

少内記從五位上中友昌〈八十二〉 少外記・宮内少輔、七月二日卒

〈在官卅七年〉

正六位上同昌範〈六十〉 少外記・式部少丞、十月十一日

從五位下

同永清〈三十五〉 七月十三日兼、少外記・春宮少

属

中務少輔職永男

元禄八十五誕生、同四十二廿三從五（正六カ）下、宝永四十二十八權少外記、享保九八卅少外記、同十一十一廿三正六上、同十三六十一春宮少属

△同十五年〈庚戌〉

大内記從四位下菅冬長〈二十二〉 侍從・文章博士

少内記從五位下中昌範〈六十一〉 少外記・式部少丞

正六位上同永清〈三十六〉 少外記・春宮少属

△同十六年〈辛亥〉

大内記從四位下菅冬長〈二十三〉 侍從・文章博士、正月廿五從四

上〈去五分〉

少内記從五位下中昌範〈六十二〉 少外記・式部少丞

正六位上同永清〈三十七〉 少外記・春宮少属

△同十七年〈壬子〉

大内記從四位上菅冬長〈二十四〉 侍從・文章博士、

少内記從五位下中昌範〈六十三〉 少外記・式部少丞

正六位上同永清〈三十八〉 少外記・春宮少属、十二月廿七日從五下

△同十八年〈癸丑〉

大内記從四位上菅冬長〈二十五〉 侍從・文章博士、

少内記從五位下中昌範〈六十四〉 少外記・式部少丞、十月二日兼

任主計頭

同永清〈三十九〉 少外記・春宮少属、

△同十九年〈甲寅〉

大内記從四位上菅冬長〈二十六〉 侍從・文章博士、正月十五日正
四下

少内記從五位下中昌範〈六十五〉 少外記・主計頭

同永清〈四十〉 少外記・春宮少属、

△同廿年〈乙卯〉三月廿一日讓位

大内記正四位下菅冬長〈二十七〉 侍從・文章博士、五月十八日辞
十九日卒〈在官七年〉

從四位上同在秀〈二十六〉 五月廿四日任、侍從如元

參議式部權大輔在廉卿男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中昌範〈六十六〉 少外記・主計頭、三月十三日補

院主典代

同永清〈四十一〉 少外記・春宮少属、三月廿一日

止少属

●桜町院

△享保廿一年〈丙辰〉四月廿八日為元文元

大内記從四位上菅在秀〈二十七〉 侍從、二月一日任少納言〈于時
如元〉、卅日兼文章博士

少内記従五位下中昌範〈六十七〉 少外記・主計頭

同永清〈四十二〉 少外記

△元文二年〈丁巳〉

大内記従四位上菅在秀〈二十八〉 少納言・侍従・文章博士

少内記従五位下中昌範〈六十八〉 少外記・主計頭

同永清〈四十三〉 少外記、二月十九日兼式部権少

輔

△同三年〈戊午〉

大内記正四位下菅在秀〈二十九〉 少納言・侍従・文章博士

少内記従五位下中昌範〈六十九〉 少外記・主計頭、正月五日卒

〈在官十五年〉

同永清〈四十四〉 少外記・式部権少輔

同友俊〈五十五〉 二月六日任、少外記・兵部少丞

故少外記友昌男〈養子〉

△同四年〈己未〉

大内記正四位下菅在秀〈三十〉 少納言・侍従・文章博士、十二

月九日辞〈在官五年〉

従四位上同為成〈二十四〉 十二月十五日任、少納言・侍従、

去博士へ（同力）十七日（去カ）

云々

前権中納言為範卿男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記従五位下中永清〈四十五〉 少外記・式部権少輔、十一月廿

五日去権少輔

同友俊〈五十六〉 少外記・兵部少丞

△同五年〈庚申〉

大内記従四位上菅為成〈二十五〉 少納言・侍従

少内記従五位下中永清〈四十六〉 少外記

同友俊〈五十七〉 少外記・兵部少丞

△同六年〈辛酉〉 二月廿七日為寛保元

大内記従四位上菅為成〈二十六〉 少納言・侍従、十二月廿一日正

四下

少内記 中永清〈四十七〉 少外記

同友俊〈五十八〉 少外記・兵部少丞

△寛保二年〈壬戌〉

大内記正四位下菅為成〈二十七〉 少納言・侍従

少内記従五位下中永清〈四十八〉 少外記

同友俊〈五十九〉 少外記・兵部少丞

△同三年〈癸亥〉

大内記正四位下菅為成〈二十八〉 少納言・侍従

少内記従五位下中永清〈四十九〉 少外記

同友俊〈六十〉 少外記・兵部少丞、六月廿八日

辞少丞

△同四年〈甲子〉 二月廿一日為延享元

大内記正四位下菅為成〈二十九〉 少納言・侍従

少内記従五位下中永清〈五十〉 少外記

同友俊〈六十一〉 少外記

△延享二年〈乙丑〉

大内記正四位下菅為成〈三十〉 少納言・侍従、後十二月十六日

從三位〈于時去之、在官七年〉

從四位下同家長〈三十一〉 後十二月十八日兼任、少納言、

侍従・文章博士

故前權中納言總長卿男〈誕生以下、可見少納言補任〉

少内記從五位下中永清〈五十一〉 少外記、四月十二日從五位上

同友俊〈六十二〉 少外記、同日從五位上

△同三年〈丙寅〉

大内記從四位下菅家長〈三十二〉 少納言・侍従・文章博士

少内記從五位上中永清〈五十二〉 少外記

同友俊〈六十三〉 少外記

△同四年〈丁卯〉五月二日受禪

大内記從四位下菅家長〈三十三〉 少納言・侍従・文章博士、正月

五日從四上、三月十六日兼東宮

学士、五月二日止学士

少内記從五位上中永清〈五十三〉 少外記

同友俊〈六十四〉 少外記

●桃園院

△寛延元年〈戊辰〉延享五年七月十二日改元

大内記從四位上菅家長〈三十四〉 少納言・侍従・文章博士、二月

一日辞博士

少内記從五位上中永清〈五十四〉 少外記

同友俊〈六十五〉 少外記、十二月十三日辞少外記

△同二年〈己巳〉

大内記從四位上菅家長〈三十五〉 少納言・侍従

少内記從五位上中永清〈五十五〉 少外記

同友俊〈六十六〉 前少外記

△同三年〈庚午〉

大内記從四位上菅家長〈三十六〉 少納言・侍従、三月四日正四下

少内記從五位上中永清〈五十六〉 少外記

同友俊〈六十七〉 前少外記

△同四年〈辛未〉十月廿七日為宝曆元

大内記正四位下菅家長〈三十七〉 少納言・侍従、六月八日為侍讀

少内記從五位上中永清〈五十七〉 少外記

同友俊〈六十八〉 前少外記

△宝曆二年〈壬申〉

大内記正四位下菅家長〈三十八〉 少納言・侍従

少内記從五位上中永清〈五十八〉 少外記

同友俊〈六十九〉 前少外記

△同三年〈癸酉〉

大内記正四位下菅家長〈三十九〉 少納言・侍従、正月廿二日從三

位〈于時去之、在官九年〉

從四位上同長香〈三十〉 正月廿四日任、去博士

故少納言致長朝臣男〈実式部大輔為範卿二男〉

享保九六十一誕生、同十九十廿学問料、寛文三九廿七元服昇殿、同日文章得業生、同四九十六課試、同廿六献策、十七叙爵、大藏大輔、同五十二一文章博士、寛保二七一從五上、延享三二七正五下、同四三十六東宮学士、五止学士、寛延三正十從四下、同四六八尚復、同日從四上、尚復賞

少内記從五位上中永清〈五十九〉 少外記

同友俊〈七十〉 前少外記

△同四年〈甲戌〉

大内記從四位上菅長香〈三十一〉 閏二月廿二日復解〈実父三月廿一日卒〉

一日卒

同在富〈二十六〉 五月一日兼任、少納言・侍從、文章博士等如元

文章博士等如元

故前参議在廉卿二男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位上中永清〈六十〉 少外記

同友俊〈七十一〉 前少外記

△同五年〈乙亥〉

大内記從四位上菅在富〈二十七〉 少納言・侍從・文章博士、十一月廿二日改在家

月廿二日改在家

少内記從五位上中永清〈六十一〉 少外記

同友俊〈七十二〉 前少外記

△同六年〈丙子〉

大内記從四位上菅在家〈二十八〉 少納言・侍從・文章博士、四月卅日辞博士

卅日辞博士

少内記從五位上中永清〈六十二〉 少外記

同友俊〈七十三〉 前少外記、二月十七日辞、同日卒〈在官十九年〉

卒〈在官十九年〉

同致當〈六十二〉 三月一日兼、少外記・能登守

故少外記昌範男〈実源致康男〉

元禄八八十五誕生、享保六十二廿四正六下〈廿七〉、權少外記、同十五二廿四改長範為致當、十二廿五正六上、同十七壬五四兼任中務少丞、元文三七廿一少外記、十二廿四從五下、延享四九八兼能登守、寛延二四一從五位上

少丞、元文三七廿一少外記、十二廿四從五下、延享四九八兼能登守、寛延二四一從五位上

寛延二四一從五位上

寛延二四一從五位上

△同七年〈丁丑〉

大内記從四位上菅在家〈二十九〉 少納言・侍從、七月十六日正四下

下

少内記從五位上中永清〈六十三〉 少外記

同致當〈六十三〉 少外記・能登守

△同八年〈戊寅〉

大内記正四位下菅在家〈三十〉 少納言・侍從

少内記從五位上中永清〈六十四〉 少外記

同致當〈六十四〉 少外記・能登守

△同九年〈己卯〉

大内記正四位下菅在家〈三十一〉 少納言・侍從、閏七月十四日服解母、九月十三日除服復任

解母、九月十三日除服復任

少内記從五位上中永清〈六十五〉 少外記

同致當〈六十五〉 少外記・能登守

△同十年〈庚辰〉

大内記正四位下菅在家〈三十二〉 少納言・侍従、三月十日從三位

〈于時去之、在官七年〉

從四位上同世長〈二十一〉 三月十九日任、少納言・侍従・

文章博士、十二月廿六日正四下

權中納言家長卿男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位上中永清〈六十六〉 少外記、十一月廿一日辭少外記

同致當〈六十六〉 少外記・能登守、正月廿八日辭

外記・内記等、同日卒〈在官五

年〉

從五位下同千俊〈五十四〉 二月十七日兼、少外記・伯耆守

如元

故少外記友俊男

宝永四十二十五誕生、享保十一十二廿四正六下〈廿〉、同十二八卅

内藏助、同十四後九十九兼任權少外記、同十七正五改昌俊為千俊、

同十九正廿一正六上、元文四十一廿五辭内藏助、十二廿五兼任長門

守、寛保三八廿九任大学大允、去長門守、九二權少外記如故、延享

四六十二任伯耆守、去大学大允、十二廿六從五下、寛延元十二廿七

転少外記

△同十一年〈辛巳〉

大内記正四位下菅世長〈二十二〉 少納言・侍従・文章博士

少内記從五位上中永清〈六十七〉 前少外記

從五位下同千俊〈五十五〉 少外記、伯耆守

△同十二年〈壬午〉

大内記正四位下菅世長〈二十三〉 少納言・侍従、文章博士

少内記從五位上中永清〈六十八〉 前少外記

從五位下同千俊〈五十六〉 少外記、伯耆守、十二月十九日

從五上

△宝曆十三年〈癸未〉

大内記正四位下菅世長〈二十四〉 少納言・侍従、文章博士、十二

月十九日從三位〈于時去之、在

官四年〉

同輝長〈二十八〉 十二月十九日兼任、少納言、侍

従、文章博士如元

式部大輔綱忠卿男〈誕生已下、可見少納言補任〉

少内記從五位上中永清〈六十九〉 前少外記、十二月十九日叙正五

下

同千俊〈五十七〉 少外記、伯耆守、二月十六日辭

少外記内記等、同日卒〈在官四

年〉

從五位下同秀昌〈三十七〉 二月廿五日兼任、少外記、式部

少丞

故少外記致當男

享保十二壬正廿六誕生、同十八十二廿七正六下〈七〉、元文三八廿

七權少外記、同五十二廿四正六上、寛保三八廿九兼任大学少允、宝

曆三三廿兼式部少丞、同九五十五改秀訓〈元比天改奈加〉、同十

二廿六少外記、同二十二二十九從五下

△同十四年〈甲申〉六月二日改明和

大内記正四位下菅輝長〈二十八（ママ）〉少納言、侍從、文章博士、

十月十六日辭博士、廿日辭内記

從四位下同為璞〈二十四〉十月廿日兼任、少納言、侍從、

博士等如元、壬十二月十九日從

四上

故權中納言為成卿男

少内記正五位下中永清〈七十〉

前少外記

從五位下同秀昌〈三十八〉

少外記、式部少丞

△明和二年〈乙酉〉

大内記從四位上菅為璞〈二十五〉

少納言、侍從、文章博士

少内記正五位下中永清〈七十一〉

前少外記

從五位下同秀昌〈三十九〉

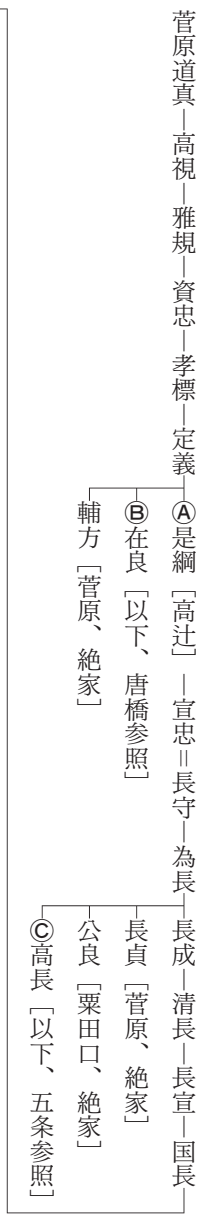
少外記、式部少丞

（以上）

【系図】

- 一、本系図は、本史料（前掲【翻刻】）中に登場する大内記・少内記の関係系図である。
- 一、本史料中の人名には網掛けを施し、人名右肩に大内記・少内記各々の就任順の番号を付した。
- 一、（ ）内には前名等を、「 」内には家名等を記した。
- 一、本系図は、『諸家伝（高辻・五条・東坊城・唐橋・清岡・桑原）』、『地下家伝』などを基に作成し、橋本政宣編『公家事典』（吉川弘文館、二〇一〇年）を適宜参照した。

【1】大内記系図



長衡—久長—長郷—継長—長直—章長—長雅—^②遂長（五条為経息。高辻流相統）—長純—^⑤豊長（良長）—^⑨長量—^⑫総長

^⑪冬長—^⑭家長—^⑮胤長（世長）—福長—俊長—以長—修長

⑧唐橋在良—清能—貞衡—在清—公輔—公良—公氏—公頼—在雅—在親—公熙—在貫—在遠—在豊

在治—在数—在名—在通—在村—在勝—^⑧在庸—^⑩在隆—^⑪在廉—^⑬在秀—^⑭在家（在富）—在熙—在経—在久—在光

在綱

③[五条] 高長—長経—季長—為視—為綱—為守—為清—為賢—為親—為学—為康—為経—①為適—④為庸
④茂長「以下、東坊城参照」

⑥為致
⑤長時「以下、清岡参照」為範
為房—⑬為範—⑨為成—⑤為俊（為璣）—為徳—為貴—為定—為栄

④[東坊城] 茂長—長綱—秀長—長遠—益長—長清—和長—長淳—盛長—長維—③恒長（知長）—⑦長詮
①資長—⑬綱忠（長誠）—益良—尚長—聡長—夏長—任長—徳長
②輝長

⑤[清岡] 長時—⑬致長—②長香—貞長—輝忠—長親—長材—長熙—長説

【2】少内記系図

①中原姓平田家

中原②生職—⑤職俊—⑧職永—⑪永清（職壽）—頭壽
（※生職…父兵庫頭中原職久。中原康致中絶之跡相続。）

②中原姓山口家「もと志水家」

中原生俊（後生）—生慶—④定慶—⑦定清—友範—⑩昌範—⑬致當—⑮秀昌—庸昌
（※生俊…父中原景秀。為大外記師生朝臣猶子受生之字。※生慶…実中原景秀二男。※定慶…実中原景秀三男。※友範…定清蒙御暇之後及断絶之处、少外記中原友昌為猶子相続。仍称号改山口。実橘定成男。※昌範…実橘定成二男。※致當…実源敬康男。）

③中原姓山口家

中原生友—定友—^⑨友昌—友範—英昌—^⑫友俊—^⑭千俊（昌俊）—友興

（※定友…為大外記師定朝臣猶子受定之字。※友昌…円満院官坊官古守大藏卿法眼定益子定治男。定友早世之後、依無子右大史安倍亮昌為猶子相統、受昌之字。※友範…実友昌兄。贊者縫殿允橘定成男從六位下橘定軌友昌以甥為猶子改友範。元禄五年九月十三日志水少外記中原定清御暇及断絶。仍友昌願相統授友之字。号山口也。家伝有彼家。※英昌…実下鴨祝鴨脚三位秀文卿男。大外記師英朝臣為猶子受英之字。※友俊…実丹州佐々木京極家々土羽田少松斎源幸成次男。）

④安倍姓山口家

安倍盛厚—^①盛勝—亮守—^⑥亮昌—亮仲

（※亮昌…実右史生宗岡孝昌末子。亮守養子。）

⑤三善姓山名家

三善英芳—^③亮英

（さい） あいみ 歴史文化学科）

二〇一六年十一月十五日受理